

2009年度(2010年3月期) 第2四半期決算説明会



2009年11月2日
大正製薬株式会社
会長兼社長 上原 明

2009年度第2四半期決算：概要



第2四半期(累計): 損益の概要

(億円)

	08年度 2Q	09年度 2Q	対前年同期増減		対予想*
売上高	1,263	1,298	+34	+3%	+18
SMG*	825	816	▲9	▲1%	▲6
医薬事業	438	481	+43	+10%	+23
営業利益	195	182	▲13	▲7%	+12
経常利益	208	189	▲19	▲9%	+9
当期純利益	▲11	104	+114	-	+4
EPS(円)	▲3.6	36.1	+39.7	-	+1.3

注: 数字は億円未満四捨五入

* SMG: セルフメディケーション事業

*7月発表の予想対比

2009年度第2四半期の概況(1)



・セルフメディケーション事業

- インフルエンザ関連: 予防関連製品が伸長
- 新製品(リアップX5、ジクロテクト等):
計画通りの寄与
- 新販売制度施行に伴う影響: 想定内、
7月以降、第1類医薬品の販売は徐々に回復も
- ドリンク剤: 天候不順で苦戦

→セルフメディケーション事業売上高はやや未達

<ご参考: 市場の状況>

- OTC医薬品市場: 前年同期比 1%増
 - ・花粉症関連、新型インフルエンザ予防関連などが寄与
 - ・7月は天候要因が夏物商品に影響し、マイナス

2009年度第2四半期の概況(2)



・ 医薬事業

- 新製品：注射用抗菌薬ゾシンが引き続き好調、キノロン系経口抗菌薬ジェニナックも寄与
 - 既存品：クラリス、パルクス健闘
- 大正富山医薬品の売上高は計画を大きく上回った

<ご参考：市場の状況>

- 医療用医薬品市場：前年同期比 4%増
 - ・当社の主力市場である抗菌薬市場は0.2%減（経口1%増、注射2%減）

Copyright 2009 IMSジャパン株式会社
出典：JPM 2008年4-9月、2009年4-9月
無断転載禁止

2009年度2Q : 売上高・利益の増減要因



(期初からの6ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p>売上高 (+34億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (▲9億円) OTC薬等 ▲16億円 予防関連雑貨等 +3億円 リビタシリーズ +2億円 海外ドリンク剤 ▲3億円 その他 +5億円</p>	<p>医薬事業(+43億円) 大正富山医薬品 +54億円 ロイヤルティ収入 ▲11億円 中間製品等 微減</p>
<p>営業利益 (▲13億円)</p>	<p>売上総利益*:5億円の減少 (売上総利益率* 前年同期67.3%→当期65.1%) 販管費:8億円の増加 内訳 研究開発費 ▲6億円 販促費 +10億円 広告宣伝費 +12億円 人件費 +2億円 その他 ▲10億円 (のれん償却額減少等)</p>	
<p>営業外損益:持分法投資損失やや拡大(前年同期▲18.59億円→当期▲19.20億円)</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	2Q (4-9月)	対前年 増減額	対予想	通期予想	
				新予想	対従来 予想
リポビタンシリーズ	399	▲25	▲13	719	▲10
パブロンシリーズ	106	+12	+9	266	+3
リアップシリーズ	64	+6	▲3	127	▲3
胃腸薬シリーズ	21	▲0	▲0	43	▲2
ナロンシリーズ	23	+1	▲1	46	▲1
コーラックシリーズ	19	0	0	40	0
リビタシリーズ	14	+2	+1	30	+1
クラリス	101	+2	+3	244	+9
パルクス	55	▲1	▲1	110	0
ゾシン	51	+42	+11	102	+22
ジェニナック	27	+17	+2	54	+3

注: 数字は億円未満四捨五入

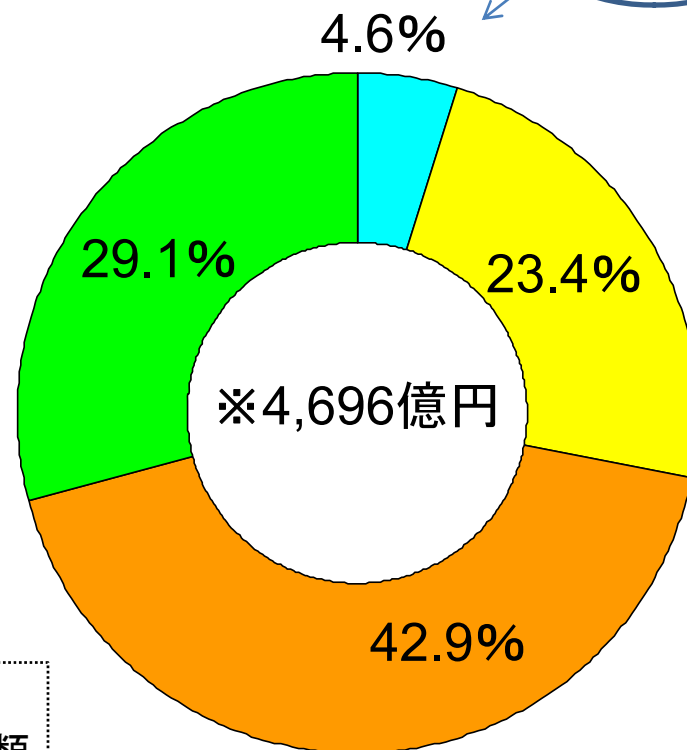
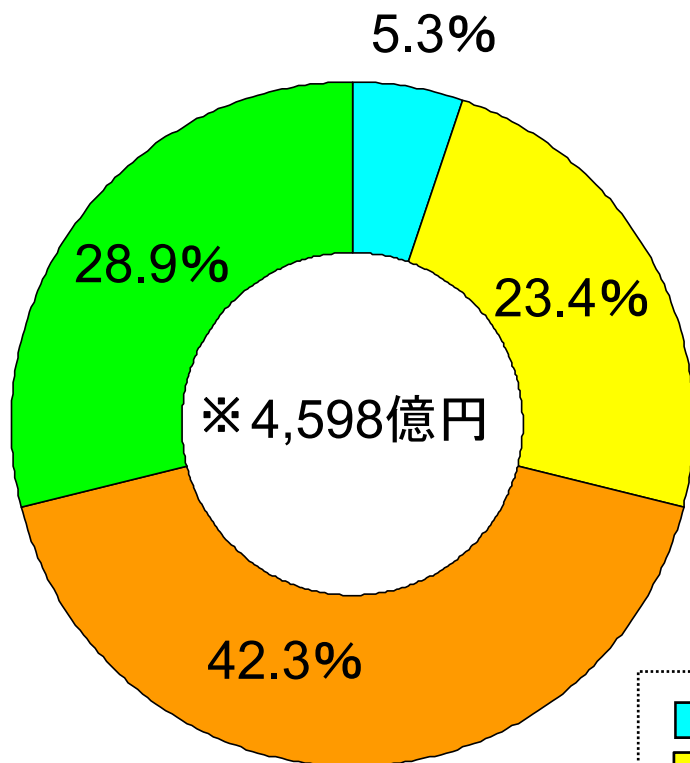
OTC医薬品分類別構成比



国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2008年度上期)

(2009年度上期)

第1類の
前年同期比
89%



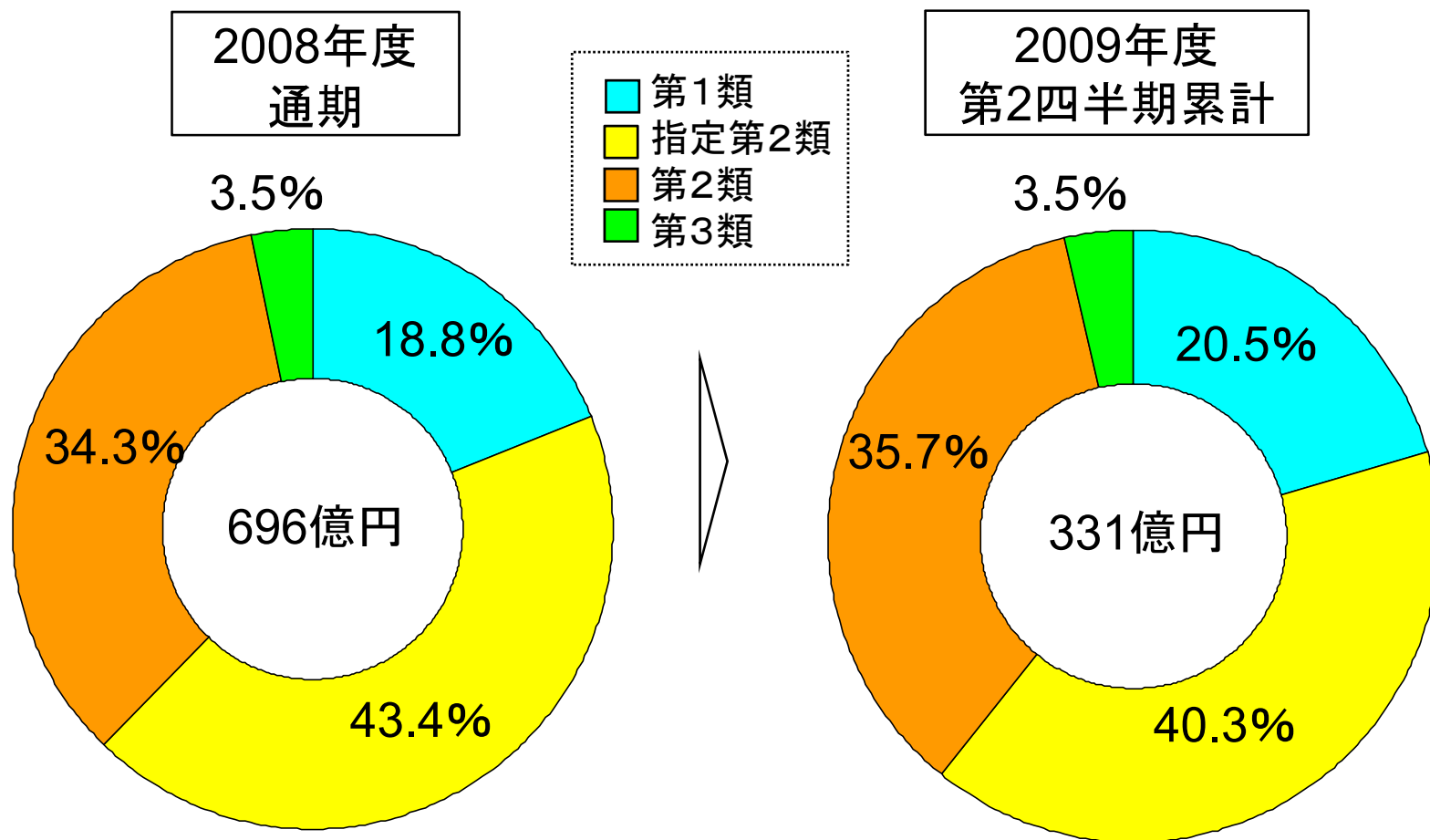
- 第1類
- 指定第2類
- 第2類
- 第3類

(SDIデータをもとに当社推計,
売価額ベース)

当社の分類別売上構成比



- 当期(第2四半期累計)はリアップX5等の発売もあり、第1類医薬品の比率は上昇(2008年度通期の18.8%→2009年度第2四半期累計は20.5%へ)



2009年度：通期業績予想



売上高、営業利益を上方修正、経常・当期純利益を下方修正 (億円)

	新予想	前期比増減		対従来予
売上高	2,620	+58	+2%	+50
SMG*	1,619	+8	+0%	▲6
医薬事業	1,001	+50	+5%	+56
営業利益	345	▲34	▲9%	+5
経常利益	360	▲39	▲10%	▲30
当期純利益	195	+107	+121%	▲35
EPS(円)	68.0	+38.0	+127%	▲12.2
(参考)				
大正富山医薬品売上高	870	+53	+6%	+50

注：数字は億円未満四捨五入

*SMG：セルフメディケーション事業

2009年度通期予想：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+58億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+8億円) OTC薬等 ▲1億円 リビタシリーズ +4億円 海外ドリンク剤 ▲5億円 その他 +10億円</p>	<p>医薬事業(+50億円) 大正富山医薬品 +53億円 ロイヤルティ収入 ▲11億円 中間製品等 +7億円</p>
<p>営業利益 (▲34億円)</p>	<p>売上総利益*: 7億円の増加 (売上総利益率* 前年同期66.1%→当期65.0%) 販管費: 42億円の増加 内訳 研究開発費 +9億円 販促費 +20億円 広告宣伝費 +8億円 人件費 +9億円 その他 ▲4億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損失は42億円を織り込む(従来 13億円)</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	2Q (4-9月)	通期予想		
		新予想	対従来 予想	対前年 増減額
リポビタンシリーズ	399	719	▲10	▲29
パブロンシリーズ	106	266	+3	+12
リアップシリーズ	64	127	▲3	+13
胃腸薬シリーズ	21	43	▲2	▲1
ナロンシリーズ	23	46	▲1	+2
コーラックシリーズ	19	40	0	+1
リビタシリーズ	14	30	+1	+4
クラリス	101	244	+9	+4
パルクス	55	110	0	▲2
ゾシン	51	102	+22	+62
ジェニナック	27	54	+3	+17

注: 数字は億円未満四捨五入

第3四半期以降の動向



・ セルフメディケーション事業

- リアップX5など今年度発売品：引き続き育成
- リポビタミンシリーズ：ユーザーのニーズに対応したシリーズ品拡充により、全体で売上を確保
- 第1類医薬品：方針変わらず、引き続き強化（来年度以降の新製品につなげる）

・ 医薬事業

- 骨粗鬆症治療薬CT-081申請
感染症に続き、炎症・免疫領域の強化
- 既存品の確保とジェニナック、ゾシンの育成両立

セルフメディケーション事業：新製品



下期はすでに発売した新製品を育成

<2009年度の新製品>

赤文字: 発売済みの製品

<p><第1四半期> ストパン、ジクロテクト リポビタミンハーブ リアップX5 フラバン エイジ(通販) など</p>	<p><第3四半期> ドリンク剤 リビタシリーズ など</p>
<p><第2四半期> リポビタミンエース アンセリン粉末緑茶 など</p>	<p><第4四半期> 外用剤 ドリンク剤 など</p>

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



国内

(2009年10月30日現在)

	<u>特長他</u> 予定適応症	開発形態	オリジン
申請中			
クラリス錠200 (経口)	<u>マクロライド系抗生物質</u> 3剤併用*1による胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、及び特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリの除菌(適応追加)	3剤併用療法に係る9社*2による公知申請	大正製薬
CT-081* (経口)	<u>活性型ビタミンD3誘導體</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064** (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71、中外製薬が申請

** CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

*1 プロトンポンプ阻害薬(ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム)及びアモキシシリン水和物を用いた3剤併用

*2 大正製薬、アボット ジャパン、アステラス製薬、アストラゼネカ、エーザイ、協和発酵キリン、塩野義製薬、武田薬品工業、田辺三菱製薬

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2009年10月30日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
TS-071 (経口)	<u>SGLT阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬

* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



国内(続き)

(2009年10月30日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
TS-022 (外用)	<u>プロスタグランジン誘導体</u> アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

海外

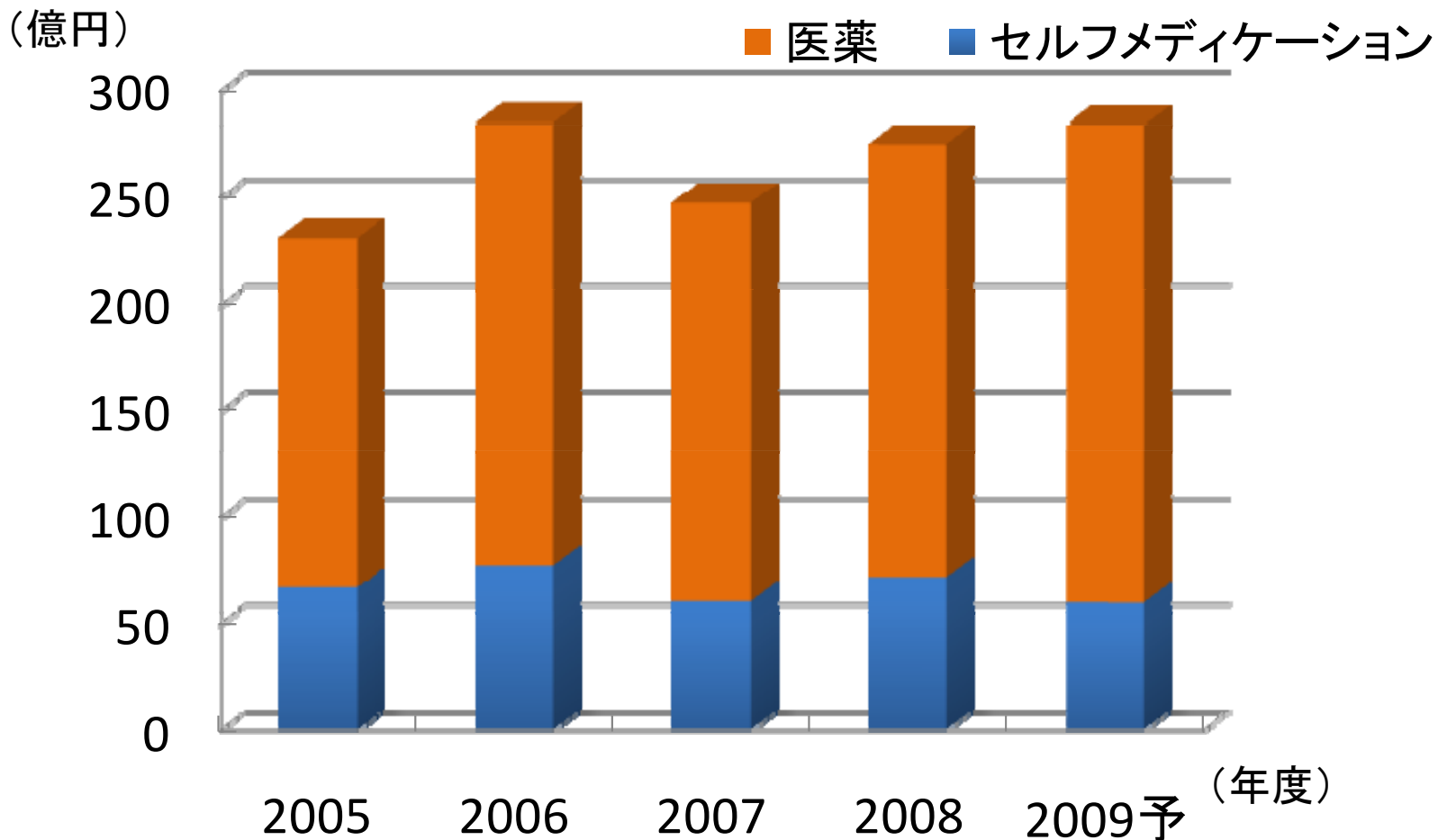
(2009年10月30日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TS-022 (外用)	<u>プロスタグランジン誘導体</u> アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬

研究開発費の動向



期初計画から大きな変更はない



海外展開の新しい一歩



- ・ BMSのアジアOTC医薬品事業買収
 - ・ 有力ブランドの買収 (Tempra、Counterpain)
 - ・ インドネシア子会社 (BMSI社) の株式取得
- 10月30日 (現地時間)、買収完了
- 買収の背景・理由
 - ✓ アジア地域で高いブランド力を有する製品群の商標権等を取得することによって、成長性の高いアジア地域でのOTC医薬品事業への本格的参入が可能となる
 - ✓ 両社のノウハウを融合させることにより、BMS社の製品ブランドのみならず、当社既存製品についても売り上げ拡大を図ることが可能となる
 - ✓ BMSI社の生産設備を、アジアにおける当社生産拠点として活用することが可能となる

アジアOTC事業



大正製薬株式会社

【取得した商標権を保有】

外用消炎鎮痛薬
「Counterpain」



【アジア市場向け製造工場】

PT Taisho
Pharmaceutical
Indonesia Tbk
(旧) BMS Indonesia

供給

【アジア市場OTC事業統括】

新設：統括会社
(シンガポール)

発注

インドネシア

タイ

フィリピン

マレーシア

シンガポール

香港・マカオ

台湾

解熱鎮痛剤「Tempra」



BMSI工場

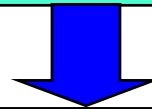


取得資産の内容

＜ 取得資産 ＞

BMSI株式	137億円
無形固定資産(ブランド資産等)	146億円
<hr/>	<hr/>
合計	283億円
その他費用(TOB等)	9億円
<hr/>	<hr/>
取得資産総計	292億円

10月30日付でBMSI株式および無形固定資産(ブランド資産)を取得。



BMSIの9月末貸借対照表を当社の第3四半期で取り込む。

BMSIは12月決算会社のため、同社の損益は第4四半期業績(10-12月)を当社第4四半期連結業績(2010年1-3月)で取り込む。

株主還元・自己株式



- ・ 株主還元の方針に変更はない

- ・ 配当

- 期初計画通り、年27円/株を予定
- 12月に中間配当12円を実施予定

